



Developing a Social Capital Scale for Family Caregivers of People with Dementia

Furukawa, Hidetoshi

(Degree)

博士 (保健学)

(Date of Degree)

2020-09-25

(Date of Publication)

2022-09-25

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第7868号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1007868>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



(様式 3)

論文内容の要旨

専攻領域 看護学領域

専攻分野 生活支援開発看護学分野

氏 名 古川秀敏

論文題目 (外国語の場合は、その和訳を () を付して併記すること。)

Developing a Social Capital Scale for Family Caregivers of People with Dementia

(認知症家族介護者におけるソーシャルキャピタル測定尺度の開発)

論文内容の要旨 (1,000字~2,000字でまとめること。)

認知症高齢者の増加は全世界的に予測されており、その対策への膨大なコストが推計されている。認知症高齢者が地域社会で生活を継続することは、認知症高齢者の身体的健康や生活の質の維持、向上、さらには認知症の悪化の抑制に効果的であることが報告されている。

認知症高齢者は配偶者や子供といった家族に介護されることが多く、地域社会で生活するにあたって家族は重要なリソースの1つである。しかしながら、認知症の介護にあたる家族介護者は介護に伴う身体的な負担のほか、深刻なストレスを抱え、不安や、抑うつなどを経験していることも知られている。

認知症家族介護者の介護負担に関する研究は、介護者への周囲からの支援が重要であることは数多く報告されている。認知症高齢者とその家族は、よりよく生活するため、介護保険をはじめ、様々な社会資源を利用している。このような社会資源の利用は、周囲の人々とのつながりを形成していく。近年、認知症高齢者やその家族における地域社会での生活の継続のために認知症にやさしい地域づくりが世界的に行われている。これは、認知症高齢者とその家族介護者が周囲の人々とのつながりを示す社会ともいえる。

人と人とのつながりにおいて、ソーシャルキャピタルという概念が広く使用されるようになった。ソーシャルキャピタルは経済学の

中から誕生した概念であるが、現在では社会疫学をはじめとする様々な領域で研究されており、その身体的、心理的效果が検証されている。しかしながら、ソーシャルキャピタルの効果が検証される一方で、現在までに認知症家族介護者向けのソーシャルキャピタルを測定するツールは開発されていない。そこで、本研究では、認知症家族介護者を対象としたソーシャルキャピタル尺度を開発することを目的とした。

認知症家族介護者のソーシャルキャピタルを測定すると考えられる質問項目を、先行研究及び既存の尺度を参考にして41項目を用意した。認知症看護についての知識を有する認定看護師2名、認知症看護を教授している看護学の教員2名、心理学者1名に41項目の内容妥当性の検討を依頼した。内容妥当性指標を算出した結果、35項目が十分な内容妥当性を有していた。さらに、認知症の家族会の会員5名に対し、表面妥当性の検討を依頼し、質問項目において回答が困難または分かりにくい表現である項目の文言を修正した。ランダムに選定した近畿圏内1,373の認知症関連施設(地域包括支援センター:872カ所、デイサービスセンター:101カ所、認知症カフェ:94カ所、訪問看護ステーション:206カ所、認知症家族会:100カ所)に対し、35項目のソーシャルキャピタル尺度、Geriatric depression scale、日本語に訳したPositive aspects of caregiving scaleを含む2,825通の質問票を配布した。

返送された質問票199部のうち、ソーシャルキャピタル尺度の全項目に回答した174部を分析対象とした。天井効果のため8項目を除いた27項目について最尤法、プロマックス回転による探索的因子分析を実施し、3因子17項目が抽出された(因子1:認知症の人とその介護者に対する支援、因子2:認知症介護における信頼、因子3:近隣からの支援)。クロンバックの α 係数は、17項目全体で.85、3因子の α 係数はそれぞれ、.86、.74、.78であった。再テストへの参加に同意した対象者に4週間後に再度、質問票を送付し、返送された50の回答を検討した結果、級内相関係数は.71であった。

これらの結果より、本研究で開発した尺度は十分に認知症介護者のソーシャルキャピタルを測定できるものと考えられる。本尺度の使用は、認知症介護者の介入や認知症をもつ人およびその家族が地域でよりよく生活することを支援することができる地域づくり、換言すれば、認知症にやさしい地域づくりの実現の一助となると考える。

指導教員氏名: グライナー智恵子 教授

論文審査の結果の要旨

氏名	古川秀敏		
論文題目	Developing a Social Capital Scale for Family Caregivers of People with Dementia (認知症家族介護者におけるソーシャルキャピタル測定尺度の開発)		
審査委員	区分	職名	氏名
	主査	教授	グライナー智恵子
	副査	教授	中澤 港
	副査	准教授	小寺さやか
	副査		印
要 旨			
<p>ソーシャルキャピタルという概念は、社会疫学をはじめとする様々な領域で研究されており、その身体的・心理的効果が検証されている。しかし、これまで認知症家族介護者に向けた本概念を測定するツールは開発されていない。本研究の目的は、認知症家族介護者におけるソーシャルキャピタル測定尺度の開発することである。文献検討や内容妥当性の検討等により、認知症家族介護者のソーシャルキャピタルを測定すると考えられる35項目の原案が作成された。ランダムに選定した近畿圏内の認知症関連施設に対し、ソーシャルキャピタル測定尺度を含む質問票を配布した。ソーシャルキャピタル測定尺度の全項目に回答した174部を分析対象として信頼性と妥当性の検証を行った。天井効果のため8項目を除いた27項目について最尤法、プロマックス回転による探索的因子分析を実施し、3因子17項目が抽出された。クロンバックのα係数は、17項目全体で.85、3因子のα係数はそれぞれ、.86、.74、.78であった。再テスト法を実施した結果、級内相関係数は.71であった。以上より、本研究で開発した尺度は十分に認知症介護者のソーシャルキャピタルを測定できるものと考えられた。</p> <p>本研究は、認知症家族介護者のソーシャルキャピタルを測定する初の尺度開発研究であり看護学・保健学分野の発展に寄与する価値ある知見が得られたと認める。</p> <p>よって学位申請者の古川秀敏は、博士（保健学）の学位を得る資格があると認める。</p>			
<p>掲載論文名・著者名・掲載（予定）誌名・巻（号）、頁、発行（予定）年を記入してください。 Furukawa, H., & Greiner, C. (2020). Developing a social capital scale for family caregivers of people with dementia. Geriatric Nursing, 2020. In press. DOI: 10.1016/j.gerinurse.2020.04.002</p>			